

研究課題：18トリソミー肝芽腫と非18トリソミー肝芽腫の症例比較研究

1. 研究の目的

18トリソミーは、21トリソミーに次いで多い染色体異常症です。心奇形をはじめとする多くの先天異常を合併するため、長期生存が難しく、今まで悪性腫瘍の合併はあまり知られてきませんでした。しかし、長期生存する例がみられるようになると共に、肝芽腫が頻度の高い合併腫瘍として知られるようになってきました。

しかし、18トリソミーに合併する肝芽腫を対象とする、まとまった研究報告は未だなく、何故18トリソミーに多く合併するのか、よく分かっていません。そこで本研究では、その臨床像や肝芽腫の組織像などを、18トリソミーを合併しない肝芽腫と比較検討して、その特徴を明らかにすることを目的とします。

2. 研究の方法

2000年1月1日～2023年5月31日の期間に、当院、病理組織診断検査にて肝芽腫と診断された患者様（この公開文書では18トリソミーを合併しない方）を対象とします。

病理検査のために過去に作成された組織切片を用いて免疫染色を行い、病理組織像と染色所見を調べます。また、診療録から、性別、発症時年齢、生下時情報（体重、合併症）、腫瘍のステージ、手術ならびに化学療法の内容、生死や再発の転帰について調べます。

3. 研究期間

2023年7月（倫理委員会での承認が得られた日）～2025年3月31日

4. 研究に用いる資料・情報の種類

病理診断科で保管しているガラス標本とパラフィン包埋切片、診療録

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られたデータを外部へ提供することはありません。この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター
研究責任者：血液・腫瘍科 医長 森 麻希子

研究分担者：臨床研究部	部長	中澤 温子
病理診断科	医長	市村 香代子
病理診断科	応援医師	渡辺 紀子
遺伝科	科長	大橋 博文
遺伝科	医長	大場 大樹

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2023年12月31日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）